



# AJRL NETWORK

Association of Japanese Residents in LAO P.D.R.

## 巻頭言

### 日本人会会長 小泉 充

2015 年度のラオス国日本人会の会長を仰せつかりました小泉 充です。2005 年から JICA の専門家としてラオスに来て早くも 10 年目を迎えました。現在は特定非営利活動法人アジアの医療技術向上を支援する会のラオスプロジェクト事務所長として活動をしています。

皆様既にご存じのように 2015 年は日本とラオスが友好協定を結んで 60 周年そしてラオスに日本人会が発足して 20 周年を迎えました。この記念すべき年に日本人会会長という大役をさせていただくことは非常に光栄であり、また重責であると感じています。

ラオス日本人会の設立には日本国大使館をはじめ JICA ラオス事務所そしてラオス商工会議所の皆様が大変苦勞されたと聞きました。このような歴史を持つ会を次の世代に引き継いで行くのはもちろんですが、ラオス日本人会に入っていて良かった、良い思い出ができましたと皆様に声をかけていただけるような会にしていきたいと理事一同心を一つにして頑張りたいと思っています。

かつては Web サイトなどでもあまり情報がなく、東南アジアでも未知の国の一つに数えられていましたが、ここ数年の目覚ましい発展とともに日本からの旅行者も増え Web サイトやテレビの番組にも多く取り上げられるようになりました。しかし、新たに赴任される方にとってみれば情報がまだまだ少ないし普段の生活はもとよりラオス国内旅行に行くにも詳細の情報が有るようで無いなど思わぬところで不便を感じることも少なくありません。このような環境の中生活される会員の方にとって、更に生活に潤いをもたらしてくれるような日本人会が身近にあるといいなと思いませんか？

しかし、残念ながらラオス日本人会には常設の事務所やスタッフがいるわけではなく、会の運営や各イベントの開催などの全てが献身的な理事のボランティアで成り立っています。こんな状況にもめげず会員の皆様と一体になって、より楽しいそしてためになる日本人会を目指していきたいと思っています。また、今年度よりセンタワンホテル

のご厚意によりホテルの一室を日本人会用に無償でお借りすることができましたので、この部屋の活用なども考えていきたいと思っています。



更に今年度からは日本人会への入会の門戸が広くなり、日本人会に興味のある諸外国人の方も準会員として入会できることとなりましたので、より一層の情報交換や交流を通じて内容豊かなラオス日本人会として発展させていく所存です。

今後とも皆様の温かいご支援を賜りますようよろしくお願いたします。

## 本号内容

- (1) 巻頭言(新会長挨拶)
- (2) 2015 年度理事挨拶
- (3) 会則の変更について
- (4) 活動報告(遠足会)
- (5) 補習校便り
- (6) NGO/国際機関紹介
- (7) JICA ボランティアのご紹介
- (8) 日本人会主催の各競技大会開催
- (9) 大使館からのお知らせ

## 2015 年度新理事からのご挨拶

### 副会長、イベント担当：佐藤 豊

平成 25 年度日本人会副会長を務めさせていただくことになりました佐藤豊と申します。

昨年 11 月に単身でラオス日本センター(LJI)に業務調整員として赴任いたしました。今年 4 月から妻、子供 2 人の家族 4 人での新たな生活を開始いたしました。家族全員がラオスについてまだまだ右も左もわからないような状況ではありますが、日本人会をとおしてビエンチャンで暮らされている大先輩方との繋がりを大切にすると共に、まったく未熟ではありますが、日本人会理事としての役割を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 副会長、イベント、個人会員担当：鳥澤 裕介

昨年度に引き続き理事を務めさせていただき、ジャンピングラオツアーの鳥澤と申します。

今年度は、副会長、個人グループの会員取り纏めとイベントを担当させていただきます。

私から会員の皆様をお願いしたい点は、次の 2 点です。

今年度は、会長の小泉の考えもあり、イベントを積極的に行っていく予定です。会員の皆様からの御意見をお待ちしております。

先般の定期総会において、会員制度が改訂されました。より多くの方に入会いただけるようになりましたので、お知り合いの方をお誘いいただければ、幸いです。

本年も会員の皆様の御協力をお願いいたします。

### 書記、JICA 会員担当：大木 扶由子

昨年 8 月に着任し、ラオスに来て 9 カ月ほどになります。JICA 事務所では主に電力、投資促進等の分野を担当しております。これまで中南米、南アジア等のプロジェクトを担当していたのでラオスを含めメコン地域について土地勘があまりありませんでしたが、ラオスの人々の柔らかい物腰、食事のおいしさ等、東南アジアでの暮らしやすさを改めて感じております。まだまだ新参者ではありますが、日本人会の活動に少しでも貢献できるよう努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

### ビエンチャン日本語補授業校(補習校)：倉田 美喜雄

昨年度に引き続きビエンチャン日本語補授業校担当理事をさせていただきます。当校は 1997 年発足からビエンチャン日本人会に属しており、1999 年からは日本政府の助成金を受け補習校を正式に設立しました。当初、生徒は数名でしたが、現在小中学生合わせて 30 名となりました。今年度は、更に日本人会と補習校の関係を深め支援を行う環境が整いつつあるように思いますので、未来につながるいい調整役としての仕事が出来ればと考えております。引き続きご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

### メーリングリスト担当：黒崎 将仁

日本人会の皆様、マルハンジャパン銀行の黒崎と申します。日本人会ではメーリングリスト管理と会計補助を担当させていただきます。ラオスには赴任して間もなく一年となります。幼少期に四年程ボストンに住んでいたことがあります。仕事での海外駐在はラオスが初めてです。ラオスという国に対する印象は人により様々かと思いますが、私は人生で初めての駐在国がラオスで良かったと感じております。日本人会理事のなかでは最年少？の若輩者で、何かと至らぬ点もあることと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

### ビエンチャン日本語補授業校(補習校)：寺田 周平

2015 年 6 月で JICA ラオス事務所での勤務が 1 年 3 か月になりました。JICA 事務所では、主に農業分野及び森林分野の事業を担当しています。今年度は、ラオスと日本の国交樹立 60 周年、JICA ボランティア派遣 50 周年という節目の年です。情報伝達技術が発達して、情報がどんどん行きかう中で、日本人会に加入しているメリットを会員の皆様感じて、ラオスにいる知り合いの日本人、日本に興味を持つラオス人を誘ってこようと思うような日本人会にならないといけないんだろうなあ・・・と、漠然と考えているところです。いいアイデアがあったら、是非、教えて下さい。

### 会計・名簿、NGO・国際機関担当：持田 寿光

初めまして、(特活)歯科医学教育国際支援機構の持田と申します。この度、2015年度も理事をさせていただく事になりました。2014年度と同様に会計と名簿の担当をさせていただきます。2014年度にも理事をさせていただいた際、当時の理事の方々との協同、またイベント等にて会員様と触れ合う機会を持ち、海外に在住する中で日本人の素晴らしさに改めて気付く良い機会となりました。そういった機会を持てる事に喜びを感じました。微力ではありますが、会のために少しでも貢献できればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

### イベント、法人会担当：森谷 弘樹

初めまして。イオンリーシングサービス(ラオ)の森谷です。2014年5月より、家族4人でビエンチャンに赴任しております。昨年は、日本人会会員として、ビール工場への遠足やクリスマス会など、日本人会主催のイベントに参加させていただき、在ラオス日本人の少ない中、強い結び付きを感じた次第です。本年度は理事として、各種イベントを通じて活動を盛り上げていければと存じます。初めての理事であり、まだまだ分からないことも多くありますが、精一杯尽力させていただきますので、何卒よろしくお願い致します。

### イベント：山下 哲雄

皆様、はじめまして。山下哲雄と申します。

2014年5月1日よりJICAとラオス保健省の間で、マラリア及び重要寄生虫症に関するプロジェクトが開始されました。このプロジェクトの業務調整員として昨年の8月に赴任いたしました。これまで赴任した国では、日本人会にはあまり縁がありませんでしたが、今回初めてラオス国日本人会で活動する機会に恵まれました。今年もいろいろなイベントが企画されています。多くの人に参加していただけるよう盛り上げていきたいと思っています。若輩者ですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 会報誌：北川 陽介

在ラオス大使館経済協力班の北川と申します。主に農業や環境の分野で国際協力のお手伝いをしております。初めての海外勤務で最初は緊張していましたが、今ではラオスの穏やかな雰囲気の中、ラオス生活を楽しんでいます。

日本人会では、会報誌の作成を担当いたします。会報誌を通じて、日本人会の活動を皆様にお伝えしていきたいと思っています。会員の皆様からの記事の投稿も大歓迎ですので、投稿したい記事がありましたら、是非ご連絡ください。

### イベントのお知らせ

日本人会理事会では、会員の皆様の親睦を深めるため、年間を通して様々なイベントを開催します。皆様、奮ってご参加ください！

#### 主なイベントスケジュール

- 9月 遠足会(ナムグムダム見学を予定)
- 12月 クリスマス会
- 1月 新年会
- 3月 日本人会総会

さらに、文化人等をお招きしてカルチャースクールを開催していく予定です。開催のご案内は日本人会メーリングリストにてお知らせします。皆様のご参加をお待ちしております。

## 会則の変更について

2015年4月の総会では、昨年の特別委員会において議論された賛助会員制度の変更及び準会員制度の導入が出席者の賛成多数により決定され、会則が改定されました。

賛助会員制度の変更により、賛助会員に所属する個人4名までについては、普通会员として入会する必要がなくなりました。これまで、賛助会員に所属する個人にも普通会员としての入会をお願いしていたことから、会費の二重徴収ではないのかといったご指摘や賛助会員であることのメリットを感じづらといった課題があり、今回の会則変更に至りました。賛助会員からの会費収入は日本人会の収入において大きな割合を占めているうえ、クリスマス会等の行事において賛助会員から様々なご支援を頂いており、賛助会員数の維持・増加が日本人会の活動・存続にとって非常に重要となっています。なお、今回の会則改定で、賛助会員は法人会員に名称変更されています。

また、準会員制度の導入により、日本人以外の個人も日本人会に準会員として入会することが可能となりました。最近では、日本に留学した経験のあるラオス人も増えてきており、日本人との交流を深めたいと言った声も多く聞かれます。このようなラオス側からの要望に応えるとともに、日本人会の活動の幅を広げ、会員数を確保するために準会員制度を導入しました。

会則の主な変更点を以下に下線を付して示します。

## 会則の主な変更点

### 第3条「会員及び会員の種類」

会員は普通会员、法人会員、準会員、家族会員の4種類とする。

1項 普通会员：ラオスに在住する日本人及びその家族で満18才以上の者。

2項の1 法人会員：日本人の関係する法人等で本会の目的及び事業に賛同する者。

2項の2 法人会員として入会した団体及び企業には4票を限度に総会における議決権を与える。4票は当該法人会員に属し且つラオスに在住する日本人及びその家族で満18歳以上の者に各々1票を与えるものとする。当該議決権を与えられたものは会員名簿に登録し、本会に対する権利と義務において普通会员と同等の者として扱う。ただし、普通会员としての入会金と年会費は免除する。

2項の3 前項の条件に該当する者が4名に満たない場合には、実際に該当する人数までを議決権保有者として登録できる。

2項の4 年度の途中で議決権保有者として登録したものが2項の2に規定する資格に該当しなくなった場合は、日本人会に届け出をすることで同資格に該当する他の者と交替することができる。

2項の5 2項の2に規定する資格を満たす者が4名を超える場合は、当該4名を超える者は普通会员として入会することができる。

3項 準会員：1項の規定に該当しない満18歳以上の者で、これに準ずる者として理事会で特に認めた者は準会員として入会することができる。

4項 家族会員：普通会员若しくは2項の2に基づき議決権保有者として登録された者又は準会員の家族でラオスに在住する満18才未満の者。

5項 普通会员は総会における議決権を有する。法人会員並びに準会員及び家族会員はこの権利を有しない。ただし、法人会員において議決権保有者として登録されている者は総会において個人として議決権を行使できる。

6項 普通会员、法人会員、準会員及び家族会員は本会の行事に参加することができる。

## 活動報告(遠足会)

2015年度のイベントは5月30日(土)に実施した遠足を皮切りに順次開催する予定です。第1回目のイベントとして開催した遠足会では、法人会員の Lao Midori Safety Shoes Co., Ltd 様の工場を見学し、ナムグムダム の堤体を眺めながら昼食を取り、最後にビエンチャン近郊の塩工場を見学しました。参加者は約40名でした。

午前中は、Lao Midori Safety Shoes Co., Ltd 様の御協力のもと、工場見学をさせていただきました。まず、会社と工場の概要説明を受け、その後、工場内を日本人社員の方の説明を受けながら、隈なく見学しました。見学した工場では、工事現場などで危険から身を守るための安全靴が主に製造されています。見学された皆さんは、様々な工作機器が並び多くの作業員が働く大きな工場に驚き、一枚の皮から靴が製造されていく過程を熱心に見学していました。毎日何気なく履いているスニーカーなどもほぼ同じ工程で製造されているのだと聞き、改めて自分の足元を見てしまったと話す見学者もいました。工場内で、600人にもなる作業員が目にもとまらぬ速さで各種加工作業をしているさまを見ると、日本人スタッフの皆さんの技術指導のもと、ラオス人が一所懸命働いている様子がよくわかりました。

昼食は、日本の支援によって建設されたナムグムダムの堤体を見ながら、レストランでラオス料理を楽しみました。今回は、ダムの堤体を下流から眺めたのですが、次の遠足会では、発電所やダム湖の見学も計画しています。



【ナムグムダムの堤体を下流から眺める】

午後は、ビエンチャン近郊(動物園の近く)にある塩工場を訪問しました。海に接していない内陸国のラオスに

塩工場があることは意外ですが、はるか昔、ラオスがまだ海底にあった頃の約4億年前の海水が地中に閉じ込められ今でもラオスの地下深くに残っており、それを汲み上げ、煮詰めることで塩を作ることができるのだそうです。

塩工場といっても、写真のような窯が屋外にいくつも並べられているだけの昔ながらの工場ではありますが、初めて見る光景に参加者は興味津々の様子でした。



【たくさんの窯が並ぶ塩工場の様子】

当日のうだるような暑さの中、地下水を煮詰めている窯の近くはさらに暑いのですが、そのような中、一生懸命に窯から塩をすくい上げている作業員には脱帽する思いでした。



【窯から塩をすくい上げている作業員】

今回の遠足会の参加者は大人のみでしたが、皆さん大人の社会科見学を楽しんでいる様子でした。自分の仕事以外の職場、工場を訪れることで、見聞を広げることができた貴重な機会だったのではないかと思います。

今後も、9月26日実施予定のナムグムダムと発電所見学などのイベントを企画中です。

## 補習校便り

本校は、1997年にラオス在留邦人会内に「日本語補習校設立準備委員会」が設立され、翌年、保護者、ボランティアの協力のもと、土曜週1回の授業から開校しました。2000年より週3回(現在は火・木・土)の授業を行っており、インターナショナルスクールの終業後に2時間、土曜日は10時～12時までの2時間日本語で勉強しています。現在はビエンチャンインターナショナルスクール(VIS)の教室を借り、小学生1年～6年、中学校1～3年の計9学年を2学年一緒に教える複式学級も交えながら5名の常勤教員、更にボランティア先生の協力を得て授業をしております。

学習教科は国語、算数、数学のみですが、日本人会との合同行事(遠足、クリスマス会)や、球技大会や課外授業なども行っています。課外授業では教員、保護者、また外部の専門家やNGOなどの協力により、それぞれの専門を生かして理科、美術、音楽、日本文化、開発教育などのいつもと違う授業をしています。また、日本人会主催クリスマス会やVISの行事などで、日本文化の広報活動も行っています。

簡単に補習校について紹介しましたが、補習校に入学を希望される場合は補習校代表アドレス:  
(vientiane\_japanese\_school@yahoo.co.jp)まで連絡をお願いします。

## NGO/国際機関紹介

～特定非営利活動法人 ジャパンハート～

ジャパンハートは2004年に設立され、“医療の届かないところに医療を届ける”を理念に、海外ではミャンマー、カンボジアを中心に医療に重心を置いた活動を展開しております。

ラオスに活動地を拡げ、早くも3年が経ちました。昨年度より本格的に活動を開始し、ビエンチャン特別市パークグム郡にて、定期的な巡回診療及び外科診療を実施し、現地医療者に診察・外科診療技術を移転しています。昨年末より活動地をポンサリー県へ拡げ、甲状腺疾患患者を対象に医療を届けています。



また、ラオスは地理的条件や、保険制度、緊急搬送システムの未整備により、緊急を要する患者さんが迅速に適切な治療を受けるのが難しい状況です。国民一人一人が健康に関する正しい知識を身に付けて、医療機関にかかるまでの時間に適切な処置ができるよう、様々な場所で応急手当や一次救命処置の講義を行っています。今後も一人でも多くの人に実施していく予定です。

一つの出逢いを、目の前の一人ひとりの患者さんを大切に、我々にできる限りのことを続けていきたいと、現地の人と共に力を合わせてまいります。

ジャパンハートの活動に関心をお持ちの方は、どうぞお気軽にお尋ねください。

ジャパンハートラオスオフィス

Tel: (+856) 21-414-154



## JICA ボランティアのご紹介

工藤 剛

JICA シニア海外ボランティア  
ラオス国立合気道クラブ師範

～シニア海外ボランティア(SV)を卒業するにあたって～

私が初めてラオスを訪れたのは、2002年6月でした。合気道のSVとしてJICAから初めてビエンチャンに派遣された青木 清氏(のちに、武道センターの初代管理者として再赴任)から、サマースクールを手伝うよう依頼されたのが、きっかけでした。10日間の滞在中、ラオス青年同盟の柔道場で午前、午後の2回、稽古指導を行いました。ラオスの若者たちが熱心かつ真摯に稽古する姿に導かれて、結局、観光ゼロ、稽古漬けの初滞在でした。青木さんの許で稽古に励む彼らの姿を見て、自分も海外で指導してみたいとの思いを強め、2002年10月にプノンペン、カンボジアへ派遣されることになりました。カンボジアでの合気道は、ゼロからのスタートでしたが、3年間指導した結果、カンボジア合気道クラブの基礎を固めることができました。現在では、全国に13のクラブが活動中で、カンボジア合気道協会へと発展しました。

その後、ラオスでは、2008年～2010年と2013年～2015年6月末の計4年間、SVとして活動することができました。道場は、ラオス青年同盟から国立競技場へ移転しており、不衛生で蚊も多く、汚い道場でした。2009年11月にSEA GAMEがビエンチャンで開催された際に、ラオス・日本武道センターが日本政府より寄贈され、現在は、おそらく東南アジアでは一番立派な武道場となりました。場所も設備も最高で、各武道とも、特に子供クラスがとても活発になりました。今回の赴任の最大の目的は、ビエンチャン市以外の県への合気道普及活動でした。スポーツ省の後援を受けて、幸いにも、ルアンパバーンとサワナケートに合気道クラブを立ち上げることができました。後任のSVに、更に盛り上げていってほしいと思います。



【免許の授与を受けるモンさん】

2002年以来、丁度13年、ラオスの若者たちと活動を共にしてきました。当初、13歳だったモンコーチ(3段)が、グアムの峰岸師範に見込まれて、6月1日から1ヶ月間、更に日本で2週間の研修を受けております。ラオスの指導者も順調に育っていて、彼ら自身によるクラブの運営も軌道に乗りつつあります。来年は、ラオス合気道が20周年を迎えます。当初からの指導者も含めて、皆で盛大に祝うべく、再訪できることを楽しみにしております。

## 日本人会主催の各競技大会開催

ラオス日本人会では、今年度新たな試みとして日本人会カップなる競技大会を開催しようと企画中です。基本的にはラオスで活動している各種スポーツ同好会が主体となって競技大会を開催していただき、その競技大会に日本人会が優勝カップを提供するというものです。さらに、優勝カップに加えて、優勝賞品も提供可能か検討中です。なお、この競技大会では、日本とラオスの友好をさらに深めていくという目的も含んでいますので、競技大会の参加者には一定数のラオス人が含まれていることを条件とする予定です。詳細が決まり次第、日本人会メールにてお知らせします。

## 大使館からのお知らせ

韓国で流行中の MERS 及びビエンチャン周辺で流行中のジフテリアの基礎的な情報について、お知らせいたします。

### 【MERS】

MERS は 2012 年に中東で初めて発見された新しい疾患で、コロナウイルスの一種である MERS コロナウイルス (MERS-CoV) の感染が原因で発症します。特異的な治療薬はありません。MERS は、ウイルス曝露後、2-14 日間(中央値 5 日)の潜伏期間ののち、発熱や咳嗽、咽頭痛で始まり、しばしば肺炎へ進展、腎不全、多臓器不全、敗血症ショックを合併し時に死に至ります。飛沫や接触等の濃厚接触で感染すると考えられています。2015 年 6 月 11 日現在、世界で約 1,200 人への感染が報告されており、そのうち 40%が死亡しています。高齢者、糖尿病、腎不全の方などは重症化するリスクが高くなります。MERS が流行している韓国では、6 月 25 日までに患者数は 180 人(死亡者 29 人)にのぼっています(WHO GAR 2015-6/25)。ほとんどの患者は医療機関内で感染しており、市中感染はおきていない模様です。韓国で流行しているウイルスの遺伝子解析も行われていますが、今まで中東で流行していたウイルスから大きな変化はないことが明らかになっています(WHO GAR 2015-6/15)。6 月中旬になり新たな患者の発生は減っていますが、ラオスは韓国からの直行便があることから、いつ何時 MERS 患者がラオスに渡航するかもしれませんので、今後も流行の推移には十分注意する必要があります。なお、隣国タイでも、中東からの患者で MERS 患者発生が報告されており、同様の理由で要注意です。日常生活で咳をしている人には無防備に近づかないようご注意ください。また、手洗い、うがいを励行するとともに、人ごみなどでは状況に応じてマスクを着用するようにしましょう。

### 【ジフテリア】

最近、ビエンチャン県およびビエンチャン特別市でジフテリアが流行しています。

ジフテリアは法定伝染病です。ジフテリア菌により発生する疾病で、主に気道の分泌物によって、喉などに感

染して毒素を放出し、この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜などの麻痺、心不全等を来たして、治療をしないで放置すると重篤化し、死に至る場合があります。潜伏期は 2-5 日程度で、発熱、咳、咽頭痛、嚥下痛が主な症状で保菌者の咳により、飛沫感染します。抗生物質による初期治療が有効です。

日本人は、乳幼児期に 3 種混合ワクチン(ジフテリア、破傷風、ポリオ)の予防接種をしているため、ほぼ心配ないと思われます。1999 年以降日本では、発生していません。ラオスでも、ジフテリアは乳幼児の定期予防接種に含まれていますが、日本ほど予防接種が普及していないのが、今回の発生要因となっています。ラオススタッフが、ひどく咳をしていたら、病院での精密検査を勧めてください。また、手洗い、うがいを励行するとともに、マスクを着用するように、職場で指導しましょう。ちなみに 7 月 2 日現在でマホソット病院にはジフテリア患者が 10 名入院中で隔離されているようです。

#### ●ジフテリアに関するラオス保健省からの情報

2015 年 6 月 8 日から 2015 年 7 月 1 日までの報告数:

224 名、内 4 名死亡

ジフテリアの感染の疑いがある人および感染が確認された患者数。

- ・ジフテリア感染の疑いがある患者数:198 名、内 2 名死亡。
- ・ジフテリアの感染が確認された患者数:26 名、内 2 名死亡。

各県における感染が確認された患者数

- ・ビエンチャン県 19 名、内 1 名死亡
- ・サワナケート県 5 名、内 1 名死亡(アーサポン郡)
- ・ビエンチャン特別市 2 名 (ナーサイトーン郡 1 名、サイタニー郡 1 名)、内死亡なし

## 編集部より

ラオス国日本人会会報誌「アジャレラネットワーク」では、皆様からの投稿をお待ちしております。会員の皆様にも知っていただきたい投稿記事がありましたら、是非ご一報ください！  
会報誌担当 北川 陽介



## 法人会員

法人会員は日本人会の趣旨に賛同し運営にご協力いただいている企業です。  
ここでは今回掲載を希望された法人会員のロゴをご紹介します。(50音順)



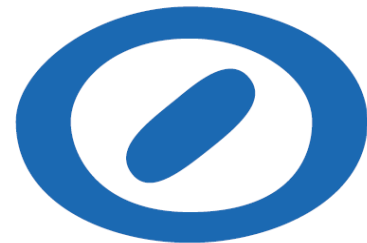
イッサラ幼稚園

# ITALIAN TOMATO

ITALIAN TOMATO ASEAN

# KOMATSU

コマツ ビエンチャン事務所



# SHMZ

清水建設 ビエンチャン事務所



# じゃぱん亭

じゃぱん亭



# TOYOTA TSUSHO

豊田通商株式会社

# PASCO

La o

World's Leading Geospatial Group

パスコ ラオス事務所



# MARUHAN

JAPAN BANK LAO

マルハンジャパン銀行ラオス